

陳情第158号	受理年月日	令和5年6月16日
付託委員会	保健福祉委員会	
件名	新型コロナワクチン接種後の中長期副反応で日常生活に支障を来している方への救済措置について	
要旨	<p>新型コロナワクチン接種が、2020年春から始まって3年以上がたつ。当初、修飾ウリジンmRNAを使った新型コロナワクチンは、人類初の試み（それは、細胞内で分解されにくい修飾ウリジンmRNAを脂質ナノ粒子（LNP）に内包して接種するタイプのもの）で、どんなリスクがあるのか分からないまま緊急使用という形で承認された。</p> <p>承認当初は、ワクチンの添付資料の臨床成績による安全性の評価では、接種後7日間の副反応しか記載がなく、心配される中長期の副反応は不明であった。</p> <p>しかし、この3年間では、様々な重篤な副反応やリスクが明らかになってきている。</p> <p>具体的な症例は、厚生労働省のホームページにある新型コロナウイルス予防接種健康被害審査部会の資料で見ることができる。</p> <p>先日6月9日の部会では、新たに170人が認定されているが、全て40代以下であった（うち10代は31人）。</p> <p>症例は、ギランバレー症候群、急性心筋炎、带状疱疹しん、末梢神経顔面麻ひなど様々である。</p> <p>北九州市内でも、接種後の体調不良により長期間仕事や学校に行けない人、日常生活に支障を来している方が少なくない。</p> <p>中には、病院での血液検査等で異常が見つからず、原因が分からないケースもあり、たらい回しにあっていくという声も多く聞く。</p> <p>八幡東区の70代男性は、胸が痛くて寝れないと、かかりつけ医に受診し検査したが、どこも悪くない、年のせいなど言われ、傷つき同じことを言われるのが嫌で、度々痛む胸の痛さに日々我慢して過ごしていると言われていた。心筋炎の可能性はあるが、まれな病気で一般の病院では、まず分からないため、ワクチンの後遺症に詳しい医師であれば、適切な</p>	

治療ができるのではと残念である。そういった後遺症難民が一定数いると思われる。

については、そういった中長期の副反応難民を救済するため、以下の対策をしていただきたい。

なお、以下の対策が最低限あれば、苦しんでおられる方々が救われる糸口となる。個人や民間がやれないことを行政でやっていただきたい。

#### 記

- 1 厚生労働省の健康被害を認定している症例をホームページに掲載し、随時、更新すること。
- 2 新型コロナワクチン接種後、中長期の後遺症群に苦しんでいる方の相談窓口、コールセンターを設置すること。
- 3 窓口、コールセンターに相談があった場合、ワクチンの副反応や後遺症（長期後遺症群）に詳しい市内の病院を紹介すること。
- 4 新型コロナワクチン接種後の中長期の後遺症群のある方や、死亡された方のために、国の救済制度の申請のサポートをすること。